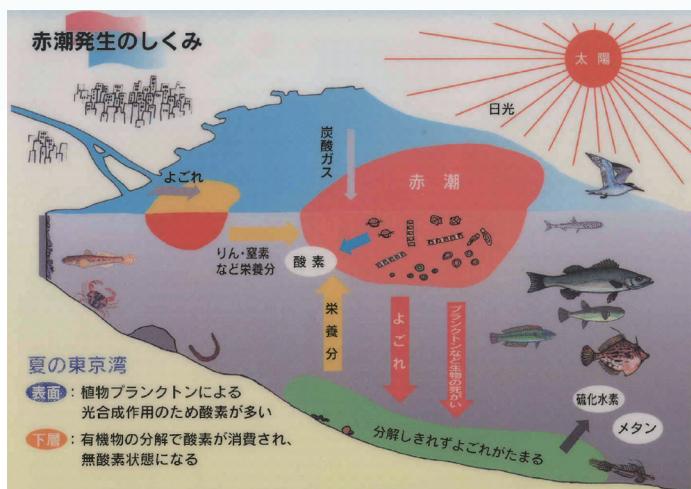
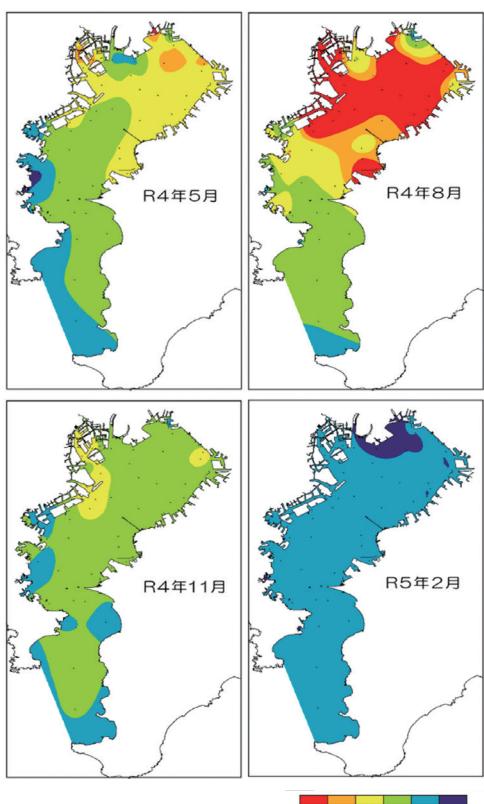


また、大量に発生したプランクトンはやがて死んで海底に堆積します。堆積物が多いと、海底で微生物が分解する際に大量の酸素を消費するため、海底に近い底層の水は貧酸素状態になります。夏には貧酸素状態の水が厚くなり（貧酸素水塊）、魚がすめなくなるほか、貝などの移動できない底生生物は死んでしまいます。



【赤潮発生のしくみ】 イラスト：トミタイチロー



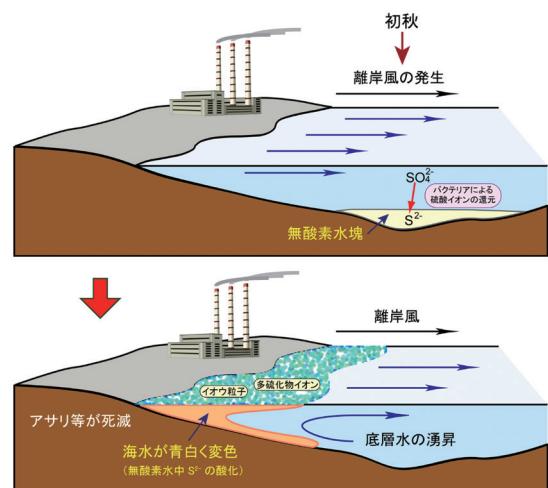
【東京湾底層における溶存酸素量 (DO) の季節変化】
※赤色は貧酸素状態

Q 海がいつもと違って青白いのはなぜ？



【青潮】千葉県ホームページより

A 海岸から沖合にかけて酸素をほとんど含まない青白い水面が広がる現象を「青潮」と呼び、東京湾では例年夏から秋にかけて、千葉県の湾奥沿岸部で多く発生します。これは、陸から沖に向かって風が吹くなど、表層の水が沖へ移動することにより、底層の貧酸素水塊が沿岸部の表層に湧き上がるときに発生します。底層水に溶け込んでいる硫黄分が水面近くで酸素に触れて微粒子状となり、青白く見えると言われています。青潮が発生すると、沿岸部に生息するアサリなどの貝類やカレイなどの底生魚類が大量に酸欠死することがあります。



【青潮発生のしくみ】 イラスト：東京都環境科学研究所